平成24年度　科学技術戦略推進費
「重要政策課題への機動的対応」に係るプロジェクト

プロジェクト名
「ほ場環境に応じた農作物への放射性物質移行低減対策確立のための緊急調査研究」

平成25年7月
農林水産省

独立行政法人　農業・食品産業技術総合研究機構
独立行政法人　農業環境技術研究所
独立行政法人　産業技術総合研究所
国立大学法人　東京大学
福島県
宮城県
岩手県
栃木県
茨城県

24年度の主な農畜産物の放射性物質検査結果（17都県）

（下段（ ）内は23年度末までのデータ）

平成25年3月31日現在[注1]

品　目	検査点数	基準値[注2]超過点数	超過割合[注3]	基準値超過品目
米	1,032万 （26,464）	84 （592）	0.0008 % （2.2 %）	米
豆　　類	**4,398** **（689）**	**25** **（16）**	**0.6 %** **（2.3 %）**	**大豆**、小豆
そ　　ば	**2,918** **（330）**	**14** **（3）**	**0.5 %** **（0.9 %）**	**そば**
野　菜　類	18,570 （12,671）	5 （385）	0.03 % （3.0 %）	ホウレンソウ[注4]、アシタバ、 レンコン、クワイ、コマツナ[注4]
果　実　類	4,478 （2,732）	13 （210）	0.3 % （7.7 %）	ウメ、ブルーベリー、 クリ、ユズ、ミカン
その他農産物	2,861 （2,958）	13 （232）	0.5 % （7.8 %）	茶
原　　乳	2,421 （1,914）	0 （8）	0 % （0.4 %）	
肉・卵 （野生鳥獣肉を除く）	154,866 （79,834）	4 （1,027）	0.003 % （1.3 %）	牛肉、豚肉、馬肉
農畜産物合計	1,051万 （127,592）	158 （2,473）	0.002 % （1.9 %）	

注1：厚生労働省及び自治体が公表したデータに基づき作成。

注2：超過が見られた品目・地域については、出荷制限や自粛などが行われている。

基準値：100 Bq/kg（茶については浸出液で 10 Bq/kg、原乳については50 Bq/kg、経過措置として、米と牛肉については 9月30日、大豆については 12月31日まで500 Bq/kg）。

注3：基準値の超過割合。23年産米については、福島県が実施した緊急調査結果を含む。23年度末までの茶は、荒茶や製茶の状態で500 Bq/kg超のデータを集計（飲用に供する状態での放射性セシウム濃度は荒茶の概ね1/50）。

注4：ホウレンソウ、コマツナの超過は各々１点のみで、汚染した被覆資材の使用による交差汚染の可能性。

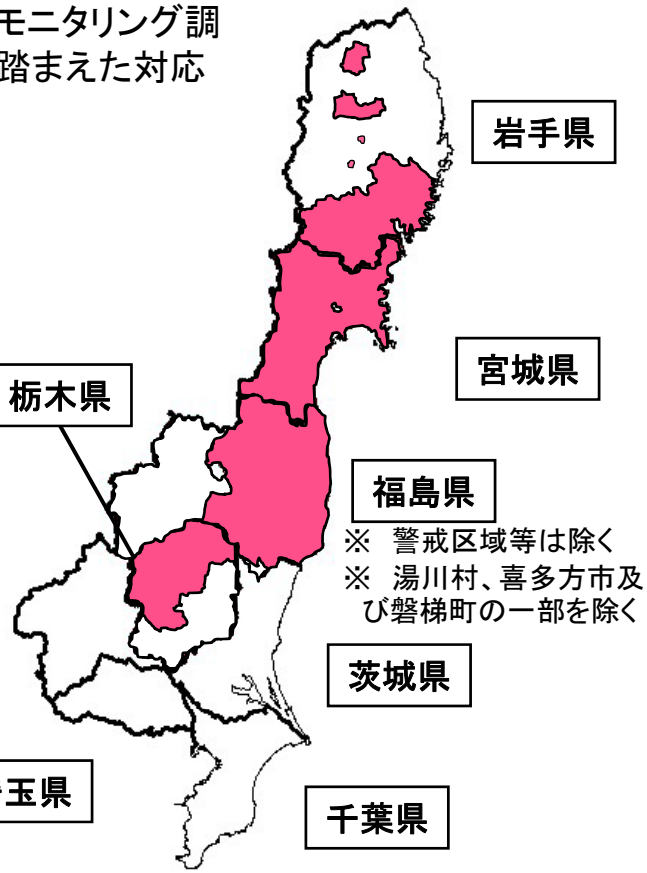
平成24年産永年生牧草等のモニタリング結果

○　新たな暫定許容値を下回る粗飼料のみが利用されるよう、平成23年度の調査で暫定許容値を上回る放射性セシウム濃度が検出された８県でモニタリングを実施するよう通知（2月3日）。

○　永年生牧草（ｵｰﾁｬｰﾄﾞｸﾞﾗｽ等）は、茨城県、埼玉県及び千葉県全域で利用可能。岩手県、宮城県、福島県、栃木県及び群馬県の一部地域で利用を自粛し、除染を指導。

○　これらの調査の結果を踏まえ平成25年産については、６県でモニタリングを実施するよう通知（平成25年3月1日）。

23～24年のモニタリング調査の結果を踏まえた対応



※　中之条町、みなかみ町、昭和村及び沼田市の一部を除く

※　警戒区域等は除く
※　湯川村、喜多方市及び磐梯町の一部を除く

平成24年産永年生牧草のモニタリング調査結果

県	全点数	濃度別地点数			
		～25（Bq/kg）	～50（Bq/kg）	～100（Bq/kg）	100～（Bq/kg）
岩手	203	180	16	4	3
宮城	9	6	2	0	1
福島	101	54	36	6	5
茨城	25	18	6	1	0
栃木	56	13	5	12	26
群馬	142	77	35	20	10
千葉	42	42	0	0	0

※1　埼玉県は23年度の最終調査結果が50 Bq/kg以下のため調査不要
※2　不検出の場合は、Cs134及びCs137の検出限界値の合計とする。

□　利用可能な地域
■　利用を自粛し、除染を指導する地域